

平成 30 年 5 月 7 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370876

研究課題名(和文) 国際テロリズムと第一次世界大戦

研究課題名(英文) International Terrorism and WWI

研究代表者

佐原 哲也 (Sahara, Tetsuya)

明治大学・政治経済学部・専任教授

研究者番号：70254125

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は政治目標を達成する手段として暴力を用いる秘密結社をテロ組織と位置づけ、こうした組織の国境を越えた活動によって既存の国際政治の秩序が崩れ、大規模な変動が生じるという仮説から、第一次世界大戦前夜の黒手組、IMRO、CUPエンヴェル派、ARFという4つのテロ組織の活動を分析した。4つの組織は何れも民族主義団体であり、相反する政治目標を持っていたが、テロの実行に際してしばしば協力していたことが判明し、そのノウハウを共有することで行動様式が類似するようになったことが確認された。4つの組織の活動の結果、地域の政治秩序が崩壊し、第一次世界大戦の引き金となった。

研究成果の概要(英文)：This study defines a terror organization as a group that employs organized physical violence as major means to realize its political objectives. The study focuses on cross border activities of such groups, and assesses their effects on regional or international systems. To this purpose, a case study is carried out in the Balkans on the eve of the First World War. Four groups were examined: The Serbian "Black Hand," Internal Macedonian Revolutionary Organization, Committee of Unity and Progress (esp. its Enver group) and Armenian Revolutionary Federation. All of them were nationalist in their political orientation, and, thus, had different, often mutually incompatible, objectives. Our study, however, found many traces of their cooperation and dense ideological and tactical exchanges. The four groups' rivalry and implementing joint operation so amplified political instabilities that the regional political system was untenable, and eventually prepared the precondition for WWI.

研究分野：歴史学

キーワード：第一次世界大戦 テロリズム セルビア ブルガリア オスマン帝国

### 1. 研究開始当初の背景

「イスラム国」の出現により中東全体の国際秩序が動揺している状況が、第一次世界大戦に酷似しているとの認識から、国境を越えて活動するテロ組織が国際秩序に与える影響への関心が高まっていた。

### 2. 研究の目的

本研究は、第一次世界大戦中のパラミリタリー組織(民兵)とその国際ネットワークの実態、それが各国の外交・内政双方に与えた影響の解明を目指す。具体的には、ブルガリア系のテロ組織「内部マケドニア革命機構」、トルコ陸軍の特殊工作部局「テシュキラー・マフスーサ」、アルメニア系のテロ組織「アルメニア革命連盟」、セルビア陸軍内の秘密結社「民族防衛団」という四つの組織の破壊活動と組織同士の連携・協力、あるいは、敵対・妨害の実態、ホスト国政府との関係、破壊活動がホスト国政府の外交・内政政策に与えた影響の総合的な解明を目指す。

### 3. 研究の方法

本研究はオーソドックスな歴史研究の手法を用いた。具体的には、ブルガリア、セルビア、トルコ、ギリシャ等の関係諸国の歴史研究の成果を踏まえて、ブルガリア国立文書館、セルビア歴史文書館、トルコ共和国公文書館に所蔵されているテロ組織関係の文書を閲覧し、新事実の発見に務めるこ

とである。

### 4. 研究成果

19世紀末のマケドニアで内部マケドニア革命機構 IMRO が結成された。IMRO は、従来は軍・警察等の体制側の標的を狙っていたテロの手法を民間の非戦闘員に対して用いることで大衆動員を可能とするという新たな戦術を編み出した。この戦術は IMRO と従来から協力関係にあったアルメニア革命機構 ARF に伝えられ、両組織はテロ工作員の相互派遣、爆弾製造技術の開発等の分野でより密接な関係を構築した。

民間人へのテロを通じて大衆動員を実現するという手法は、マケドニアのセルビア派活動家を通じてセルビア軍特殊部隊の指揮官だったヴォイスラフ・タンコシッチにも伝授された。タンコシッチはセルビア軍内部に IMRO に範をとったゲリラ部隊を建設した。これがセルビア軍内部の青年将校組織である黒手組の原型である。この手法は 1913 年のボスニア併合危機以降、当時ハプスブルク領だったボスニアに応用された。当時のボスニアにはハプスブルク支配に不満を持つ青年層の間で社会主義や無政府主義が広がり、要人暗殺等のテロを通じた社会変革を目指す「青年ボスニア」と呼ばれる運動が起こっていたが、タンコシッチはこうしたグループと接触し、テロとゲリラ戦のノウハウを伝授した。こうした関係からタンコシッチ

はプリンツィプ・グループとも繋がりを作り、サラエボ事件では彼らへ武器を供与した。

一方、IMRO を取り締まる側にあったオスマン帝国陸軍でも新たなテロ戦術に注目する将校たちが存在し、彼らは統一と進歩協会 CUP 内に独自の組織を結成した。この組織はエンヴェル・パシャに率いられていたが、青年トルコ革命を機に IMRO のサンダンスキ派と協力関係に入り、エンヴェルの部下であったスレイマン・アスケリーがブルガリアに派遣されて IMRO と共同でゲリラ戦を展開する部隊が結成された。トルコとブルガリアのゲリラはセルビア支配下のマケドニアでムルリム住民の反乱を使嚙し、セルビア軍の施設を破壊するなどの戦果を挙げた。この組織は第一次世界大戦前夜にオスマン陸軍内の特殊工作部隊であるテシュキラート・マフスーサとなった。

この間、IMRO 内でもアレクサンダル・プロトゲロフをリーダーとする軍人出身の活動家が組織の主導権を握った。プロトゲロフ・グループは CUP との絆を利用してブルガリアの参戦工作を行い、それが実現するとオスマン軍とブルガリア軍の共同作戦の調整役を務めた。プロトゲロフ・グループは第一次世界大戦後も影響力を保持し、スタンボリスキ政権を崩壊させるクーデタにも関与した。

こうして第一次世界大戦直前にセルビア、ブルガリア、トルコで陸軍内部

に政府の統制を離れた秘密結社が誕生し、数多の政治的陰謀を実行し、第一次世界大戦の勃発とその後の展開に重要な影響を及ぼしたのである。

## 5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

佐原哲也、「サラフィ・ジハード主義の歴史と「イスラム国」『現代宗教2018』、査読有、国際宗教研究所、173-198頁(単著)

佐原哲也、"Post-cold War Arms Recycling and the Genesis of the Islamic State," 『国際武器移転史研究』(明治大学国際武器移転史研究所) 査読無、3号、21-30頁

佐原哲也、"The making of "Black Hand" Reconsidered," Istorija 20. Veka, 査読有、34/1. 2015, pp.9-29

佐原哲也、"The international Jihadism: A new type of threat and regional cooperation as a remedy," METU Studies in Development, 査読有、43/2, 2015, pp.229-331

佐原哲也、"The Balkan Wars and the Root of the Contemporary nationalism: The Ethno-religious Geography," 査読有、The Centenary of the Balkan Wars (1912-1913) Contested Stances, 2014, pp.1083-1090.

〔学会発表〕(計4件)

佐原哲也、「超域的テロ・ネットワークにおける武装正当化論」政治経済学・経済史学会秋季学術大会(大阪商業大学)2017年10月14日

佐原哲也、「オスマン帝国解体期のキリスト教徒、「宗派」争点化の近現代」,日本中東学会第31回年次大会(招待講演),同志社大学、2015年05月16日

佐原哲也、「Comitadjis and their International Activities,」ASN 19th Annual Convention, Columbia University, 2014年04月25日

佐原哲也、「The Macedonian Origin of Black and the Sarajevo Incident,」International Conference "Great War, Serbia, Balkans and Great Powers,」Institute of Military History Serbia, 2014年09月24日

〔図書〕(計2件)

佐原哲也, *Donald J. Trump's Presidency: International Perspectives*, John Dixon & Max J. Skidmore eds. Westphalia Press, March 2018 (共著)

佐原哲也, 中東民族問題の起源: オスマン帝国とアルメニア人, 白水社, 2014年、275頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐原哲也 (Sahara Tetsuya)

明治大学・政治経済学部・教授

研究者番号: 70254125

(2) 研究分担者

( )

研究者番号:

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：

(4)研究協力者

( )

以上